

無所属38歳



発行人 小林伸行 小林のぶゆき 検索

住所 野比2-13-18

Fax 046-801-2177

移動事務所 ☎070-6640-3927

✉ info@kobayashinobuyuki.com

Web http://kobayashinobuyuki.com

野比在住。昭和50年9月3日、福島県生。筑波大学卒。地域情報誌と環境コンサルティングに携わるが、地域の疲弊と日本の将来を憂い、政治を志す。政策秘書試験合格後、衆議院議員長島一由(前逗子市長)公設秘書として修行し、2011年4月より横須賀市議会議員。地域通貨イタッチ事務局局長など、市民活動にも関わる。

横須賀ハコモノ白書 第二弾

ソレイユの丘を どうするか?

10年間で、来園600万人! でも税金105億円!
集客はしたが、カネはかかった10年間。

横須賀ハコモノ白書 第二弾 ソレイユの丘を、どうするか?

ソレイユの丘ができた背景

昭和50年代、長井4丁目にある旧海軍の土地が横須賀市に無償譲渡される話が持ち上がりました。

国と調整し、公園として整備することになり、内容を何年間も検討。その結果が、なぜか南フランスの農園をイメージした体験型テーマパーク「ソレイユの丘」でした。全国的に「オランダ村」や「ドイツ村」などが次々登場した時代の話です。

ところが、その後バブルも弾け、市も借金まみれで新しく施設を作る体力などない。でも、活用しないと国から譲渡されない。そこで、着目したのがPFI方式でした。要するにケータイの割賦販売と同じで、先に端末を受け取って、端末代は月額料金にコミコミの2年契約で払うと安くなる。あのイメージです。「まず民間企業に作ってもらい、施設代は10年かけて市が分割払いする。その間、その会社は施設を使って稼いでいいかわりに、市の買い取り額は安くする」という契約です。

2005年4月の開園から、もうすぐ10年。2015年6月で(株)横須賀ファーム*1 という会社側との契約が終了し、全施設が市のものになります。

ソレイユの丘はどうだったのか? いろんな角度から見つめ直し、今後を考えてみたいと思います。

どのくらいお客さんが来たのか?

来園者は、平均で年間約61万人。ですから、10年間では600万人強となるでしょう。なかなかの健闘と言えます。



どのくらい税金がかかったのか?

会社側との契約額は施設代と運営費を合わせて10年間で約76億円です。ただし、事前調査や関連道路整備などに市がかけたお金を積み上げると、実に約29億円にのぼりました。(一部、国・県の補助金も含む)

つまり、ソレイユの丘を作って10年間運営するために市が投入する税金は総額約105億円! 市民1人あたりで年間約2,500円、10年で25,000円を払う計算です。市も部署のタテ割りで、全体でこんなにかかっているとは気付いていませんでした。*2

ちなみに、市からの支払いとは別に、駐車場代や飲食・物販などの売上げは、会社側に全額入ります。平均客単価は約1000円ですので、会社側には別途10年間で約60億円近く入る計算になります。

*1: 全国11ヶ所で体験農園型テーマパークを展開する(株)ファーム(本社: 愛媛県)のグループ会社
*2: 投入した税金の内訳は小林のぶゆき blog にて公開



イラスト提供 わんぱぐ http://wanpug.com/

最近、アルパカの赤ちゃん、メルシーちゃんが人気を集める↓



どのくらい市内に雇用を生んだのか？

従業員は130名程度で、会社側は**地元住民を優先的に雇ってくれた**ようです。多くはパートやアルバイトですが、とりわけ西地区においては大きな雇用先となりました。



一方、「雨が降ってお客さんが来ないから、今日は早く帰っていい」と時間短縮がある、との不満も聞こえてきます。ただし、会社側は従業員に同意をとっているとのことなので、法的には問題ないようです。(労働基準法第26条や民法536条の2)

どのくらい市内にお金 flowed のか？

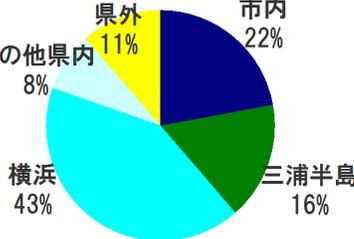
当初は「地元の新鮮な農水産物を市場で販売したり、レストランで食材として使ったりする」という話でした。しかし、実際にはそうでもなかった。

売場には全国各地の土産物が並び、レストランには遠洋物のマグロはあっても近海物の地魚などはない。南欧風がコンセプトなのに、南欧産の地産地消スローフードにも程遠い。ちなみに、新鮮どころか消費期限隠しの魚介や野菜を使って2008年には新聞沙汰にさえなりました。これで、どれだけ地元にお金が落ちたのでしょうか？

とはいえ、直接の経済効果は薄かったと思いますが、来園者600万人を右*3の割合で割れば、横浜をはじめ県内から300万人、県外からも70万人を集めた計算です。

集客力のある施設のおかげで、**間接的に三浦半島経済が潤った面はある**でしょう。

どこからお越しになりましたか？



*3:「来園者アンケート結果」(横須賀市 2011年11月)より筆者作成

結局、どうだったのか？

全体的に方向性は悪くないハコモノだったと思います。民間の発想で、お役所らしくないサービスを提供できたのも事実で、そこは素直に評価すべきでしょう。

一方、2年間は乗り換えできないケータイ同様に、**10年間のしぼりは逆に高くつきました。**園内の売上を全額わたしている割に、運営費も高すぎでした。何より市に運営権がなく、ニーズや時代に合わせた大胆なサービス内容の見直しができませんでした。

今後は、どうすればいいか？

基本的には、もはや「南欧風」の看板を外し、いまこそ「**三浦半島の自然とおいしいもの、まるごと体験**できます」という施設に生まれ変わるときです。

決定的な弱点だったレストランとお土産売場も、おいしい地魚や地野菜、横須賀ビーフやあの野菜ソフトクリーム等々、地元力を結集してテコ入れすれば新たな魅力になるはず。

その辺は、市民が入った検討委員会でも、しっかりと議論いただけたと思います。

6月には新たな委託先の募集を始める予定です。

- 市内企業が参入し易い募集条件となっているか？
- 地元貢献が評価基準に盛り込まれているか？
- ちゃんと提案内容で競争して選考する仕組みか？
- 募集要項に市民や検討委員の声がかきちんと反映されているか？ 引き続き見守っていきます！



編集後記

先日、私も執筆者に加わった本→が早稲田大により出版されました。

この本には「議会改革自己診断シート」というものが付いていたので、横須賀市議会は何点ぐらいなのか？ これを使ってチェックしてみました。

詳細は→<http://kobayashinobuyuki.com/index.php?CouncilReform>

結果は4月19日の講演イベントでお披露目したのですが、**96点中42点!** 横須賀市議会は『議会改革度ランキング』全国17位ではありますが、よそが遅れているだけなのかも。

もちろん市民のための議論がきちんとできていけば点数なんてどうでもいい。とはいえ何から着手すべきか気付けたのは収穫でした。



応援してください!

- チラシのポスティング
- 駅でのチラシ手配り
- ご自宅への看板設置
- 学生インターン

常時、様々な手が必要です。「応援してあげてもいいよ」と思って下さった方は、お気軽にご連絡下さい。

※政治献金・寄付は頂いていません。

小林のぶゆきの基本政策

見える 誰が何をどう決めてるのかわかんない……。

市政をガラス張りにして「見える化」し、意思決定の過程も含め情報公開を進めます。

わかる 難しい説明をされてもよくわからない……。

いま何が問題なのか。いま何が必要なのか。チラシなどを通してわかりやすくお伝えします。

変わる これまで何も変わらなかった。どうせ変わらない……。

現状が見え、問題がわかれば、変えられます。私たちが払った税金が、私たちに本当に必要なことに使われるよう、変えていきます。

今こそ横須賀を 私たちのものに。

横須賀市政について、私の活動について、みなさまのご意見、ご提案、ご感想、疑問などお寄せください。

必ず私、小林伸行が自分で目を通します!

